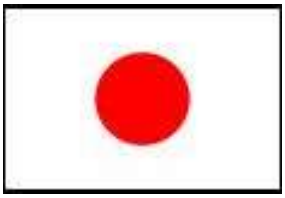

日本　⇔　カンボジア
ティーンエイジ アンバサダー 2017
カンボジアプログラム
実施報告書

日本⇔カンボジア　高校生国際交流事業　カンボジアプログラム

実施報告書

I.　交流期間：１１月２１日（火）～１１月２７日（月）

II.　主な参加者：

日本高校生　（鳥取県立鳥取西高等学校）	16 名
カンボジア高校生（BAK（バック） TOUK（トゥーク） HIGH SCHOOL）	16 名
駐カンボジア日本国大使	堀之内　秀久氏
カンボジア王国教育青少年スポーツ省教育大臣	ハン・チュオン・ナロン氏
カンボジア王国教育青少年スポーツ省長官	プッ・チョムナン氏
ジェトロ　プノンペン事務所　シニア投資アドバイザー	伊藤　隆友氏

III. 訪問場所：カンボジア王国（シェムリアップ市、プノンペン市）

IV. 事業の目的

次代を担う日本と海外の高校生が相互交流を通じ、互いの国の文化や価値観の多様性を学習・体験。

V.　交流プログラム内容：

① 表敬活動

カンボジア王国教育青少年スポーツ省	１１/２３（木）プノンペン市
在カンボジア日本国大使館にて歓迎会	１１/２３（木）プノンペン市

② 歴史・文化理解活動

世界遺産・寺院視察	１１/２１（火）シェムリアップ市
シハヌーク・イオン博物館視察	１１/２１（火）シェムリアップ市
上智大学アジア人材養成研究センター訪問	１１/２１（火）シェムリアップ市
ジェトロ　カンボジア経済状況レクチャー	１１/２３（木）プノンペン市
トゥールスレン博物館視察	１１/２３（木）プノンペン市

③ 交流活動

AAR Japan インクルーシブ教育支援小学校訪問	１１/２２（水）プノンペン市
学校訪問・授業体験	１１/２４（金）プノンペン市
ホームステイ（2 泊）	１１/２４（金）-２６（日）ﾌﾟﾉﾝﾍﾟﾝ市
フェアウェルパーティー	１１/２６（日）プノンペン市

VI. 今回のプログラムの特徴：日本プログラムにて、石澤元上智大学学長によるクメール文化保全についての取組みのレクチャーを受け、実際にアンコールワット遺跡群の修復現場を視察。カンボジアにおける障がい者支援教育の現状を、AAR Japan が支援するインクルーシブ教育学校の視察・交流を通じて学習。

VII.活動の様子：

【１】【表敬活動】

◆　カンボジア王国教育青少年スポーツ省表敬訪問　１１月２３日（プノンペン市）

↑表敬の挨拶と今後の活動についてスピーチする日本高校生

（日本高校生のスピーチより抜粋）
このプログラムを通して、私はたとえ言葉が通じにくくても相手のことを理解しようと努力することで良い関係が築けるということを実感しています。帰国後はカンボジアで学んだ事を共有していきます。

（スピーチより抜粋）
日本　カンボジア両国の高校生が、お互いの文化を知り、理解を深めることがこのプログラムの重要なところだと思います。

↑スピーチをするハン・チュオン・ナロン教育大臣

↑ハン・チュオン・ナロン教育大臣へ
鳥取県の工芸品を贈呈する日本高校生

↑ハン・チュオン・ナロン教育大臣へ記念品を贈呈する
カンボジア高校生

↑ハン・チュオン・ナロン教育大臣（写真前から２列目中央）を囲んでの記念撮影

◆　在カンボジア日本国大使館（歓迎会）　１１月２３日（プノンペン市）

（堀之内大使のスピーチより抜粋）
人と人とのつながりがなければ、国と国との間の良い関係も生まれないと感じています。今回の交流を通じて、日本とカンボジアのアンバサダーが共に友好を深め、今後の視野を広げるような貴重な経験を出来る様、期待致します。

↑駐カンボジア日本国大使よりご挨拶

（プッ・チョムナン長官のスピーチより抜粋）
日本とカンボジアは国交樹立してから 62 年が経ち、日本とは友好関係が長く続いています。このプログラムを通じて両国高校生のみなさんには、お互いの文化の違いを受け入れ、類似性を理解し、異なる環境へ適応できるようになってほしいと思います。

↑カンボジア教育青少年スポーツ省長官よりご挨拶

↑駐カンボジア堀之内大使に記念品を贈呈する
カンボジア高校生

↑カンボジア教育青少年スポーツ省プッ・チョムナン長官（写真左から 2 番目）と交流する
2000 年カンボジアティーンエイジ アンバサダーOG
（写真左：イオンモールカンボジア　ヌオン・カニタ　リーシングマネージャー、
左から 3 番目：教育青少年スポーツ省　クオン・ウィチェカ　副局長）

↑2016 年カンボジアティーンエイジ アンバサダーOB たちと
記念撮影をする日本高校生

↑駐カンボジア堀之内大使と記念撮影をする
カンボジア高校生

↑鳥取しゃんしゃん傘踊りを披露する日本高校生

↑伝統舞踊であるココナッツダンスを披露するカンボジア高校生

↑カンボジア高校生代表スピーチ

（スピーチより抜粋）

今年９月には、日本を訪問し、多くの事を学ぶことができました。特に教育の分野で、カンボジアの更なる発展のために新しい経験や知識を得ることができたと思います。日本の人々はとても親切でマナーを守り、そして勤勉でした。この経験を友人や家族と共有したいと思っています。

↑大使館にて歓迎会の記念撮影

（前から２列目、左から）（公財）イオンワンパーセントクラブ　事務局長　本田陽生、鳥取西高等学校　坂尾　俊介　教諭、イオンスペシャライズドバンクカンボジア　安藤　武人　代表取締役社長、イオンモールカンボジア　矢島　誠　代表取締役社長、イオンアジア　若山　昇　取締役 COO、（公財）イオンワンパーセントクラブ　理事長　横尾　博、在カンボジア日本国大使館　特命全権大使　堀之内　秀久　閣下、令夫人、カンボジア王国教育青少年スポーツ省　プッ・チョムナン　長官、2000 年カンボジアティーンエイジ アンバサダーOG　教育青少年スポーツ省　クオン・ウィチェカ　副局長、鳥取西高等学校　中原　侑子　教諭、バック トゥーク高校　オーク・サンポアス　教諭、2000 年カンボジアティーンエイジ アンバサダーOG　チュオン・フォファウィド　様

【２】【歴史・文化理解活動】

◆　世界遺産・寺院視察　１１月２１日（シェムリアップ市）

↑アンコールワット遺跡群の修復中の参道を見学する日本高校生

↑遺跡修復の現場を見ながら説明を受ける日本高校生

↑上智大学三輪先生に質問をする日本高校生

↑アンコールワットを背に記念撮影

↑タプローム寺院にて木の根に包まれた
石の建造物を視察する日本高校生

◆　シハヌーク・イオン博物館視察　１１月２１日（シェムリアップ市）

↑石像の模造品を使った説明を受ける日本高校生

↑出土品について説明を受ける日本高校生

◆　上智大学アジア人材養成研究センター訪問　１１月２１日（シェムリアップ市）

↑上智大学三輪先生のレクチャーを受ける日本高校生

↑レクチャー後に質問をする日本高校生

◆　ジェトロ　カンボジア経済状況レクチャー　１１月２３日（プノンペン市）

↑カンボジアの経済状況についてレクチャーを受ける日本高校生

↑ジェトロ伊藤シニアアドバイザーに記念品を渡す日本高校生

◆　トゥールスレン博物館視察　１１月２３日（プノンペン市）

↑カンボジアの歴史について話を聞く両国高校生

【３】【交流活動】

◆ AAR Japan インクルーシブ教育支援小学校訪問　１１月２２日（プノンペン市）

↑インクルーシブ教育について説明を聞く日本高校生

↑子どもたちに折り紙を教える日本高校生

◆　学校訪問・授業体験　１１月２４日（プノンペン市）

↑正門にてバック トゥーク高校生に
迎え入れられる日本高校生

↑トゥーク カンタル校長先生へ記念品を贈呈する
日本高校生

↑スピーチをする日本高校生

（スピーチより抜粋）
今年９月には、バック トゥーク高校のみなさんを鳥取西高校に迎え、充実した時間を過ごすことができました。日本とカンボジアには、多くの文化的な違いがありますが、様々なコミュニケーションの方法を使ってすぐに仲良くなれると思います。今回のバック トゥーク高校での授業体験を通してカンボジアの事をたくさん学びたいです。

↑鳥取しゃんしゃん傘踊りを披露する高校生

↑鳥取しゃんしゃん祭りについて発表をする日本高校生

↑ペアで授業を受ける日本高校生

↑ペアからカンボジアの教科書について話を聞く日本高校生

↑カンボジア高校生とサッカーをする日本高校生

◆ ホームステイ　１１月２４日―２６日（プノンペン市）

↑ホストファミリーと食卓を囲む日本高校生

↑ホストファミリーと記念撮影する日本高校生

↑ホームステイ中に訪問した場所で記念撮影をする日本高校生

↑フットサルに興じる両国高校生

バック トゥーク高校ホストファミリーのコメント（アンケートより抜粋）
ホームステイの日数がもう少し長ければ良かったです。日本の高校生を自宅に招くことができてとても良い経験になりました。このプログラムは両国高校生にとって友好を深める良い機会になると思います。
ホームステイ期間中に特に問題はなく、ペアは礼儀正しく、楽しく過ごせたと思います。娘がこのプログラムに参加して、コニュミケーションや英語に対して自信がついたのではないかと思います。今後もこの活動を続けてほしいです。
ホームステイの日数が長ければ、もっと色々場所を案内できたと思います。子どもたちにとってホームステイがお互いの理解を深める良い機会だと思います。
ホームステイ準備についてもう少し時間がほしかったですが、日本の高校生を新しい家族の一員として迎え入れることができて良かったです。

◆ フェアウェルパーティー　１１月２６日（プノンペン市）

↑イオンカンボジア代表取締役社長よりご挨拶

（大野社長のスピーチより抜粋）
カンボジアでの一週間の滞在で色々な事を経験されたのではないかと思います。その経験と感じた事を大切にして下さい。大事なことは、実際に自分の目で見て感じるという事です。将来自分の過去を振り返った時、きっと何かの役に立っているはずです。

↑イオンモールカンボジア代表取締役社長より乾杯のご挨拶

（矢島社長のスピーチより抜粋）
日本　カンボジア両国での交流を終え、お互いの親交を更に深めることができたら大変嬉しいと思っています。また、異国の生活を体験し、今回のプログラム参加通じて、友人ネットワークを拡げ、今後の人生をより実り多いものとされることを心より願っております。

↑ホストファミリーと記念撮影をする日本高校生（写真左から３番目）

↑ホストファミリーと記念撮影をする日本高校生（写真左）

↑OB、OG と一緒にカンボジア伝統舞踊を踊る両国ティーンエイジ アンバサダー参加者

↑2000 年カンボジアティーンエイジ アンバサダーOG によるスピーチ

（スピーチより抜粋）

現在はイオンモールカンボジアでシニアリーシングマネージャーとして働いています。2000 年にこのプログラムに参加したことで、より一生　懸命、そして賢く勉強しなければならないと思いました。それが今の自分につながるきっかけになったと思います。今のティーンエイジ アンバサダーのみなさんにも　何か目標になるものを見つけて欲しいと願っています。

↑2013 年カンボジアティーンエイジ アンバサダーOG によるスピーチ

（スピーチより抜粋）

現在は王立プノンペン大学の学生です。2013 年にこのプログラムに参加し、多くの事を学びました。日本の文化や習慣、人々について全てが新鮮でした。この相互交流プログラムの特徴は、お互いの違いを知り、経験したことのないことを教え合うことです。みなさんも同じ様に今回経験したことを将来活かすことができる様、願っています。

↑日本高校生代表スピーチ

（スピーチより抜粋）

初めてカンボジアのみなさんと出会った時は、とても緊張していました。そして少し不安もありました。でも私たちは多くの時間を積み重ね、お互いに連絡を取り合うことで仲良くなることができたと思います。このプログラムを通してカンボジアの良さはもちろん、改めて自国の良さにも気づくことができました。

↑カンボジア高校生代表スピーチ

（スピーチより抜粋）

このプログラムへ参加し、ホームステイを通して日本の生活習慣について多くの事を学びました。日本とカンボジア両国でペアと経験したことは忘れません。短い間でしたが、また会えることを楽しみにしています.....。

↑イオンカンボジア代表より日本　カンボジア　ティーンエイジ アンバサダーの参加証明書を受け取る両国高校生代表

↑”We are the world”にのせた活動のハイライトを観る両国高校生、ホストファミリー、OB、OG

↑フェアウェルパーティー参加者全員での記念撮影

（両国高校生、ホストファミリー、2000 年、2013 年、2016 年ティーンエイジアンバサダーOB）

VIII.参加者の感想：（スピーチ、アンケートより抜粋）

プログラムに参加して、何でもトライしてみることや疑問に思ったことはすぐに　聞いてみること等を学びました。ホームステイ中は、ホストファミリーと何とかコミュニケーションをすることができて、言葉が通じなくてもつながった様に感じました。日本、カンボジア両国で交流することでペア以外のカンボジアのみなさんと深い交流ができたと思います。

日本高校生

カンボジアについて深い歴史背景があることを知る良い機会になったと思います。人々は皆優しく、また行ってみたいです。ホストファミリーもとても親切で不自由なく過ごすことができました。この経験を通して他人にもっと親切にしていきたいと思いました。

日本高校生

日本、カンボジア両国でのプログラムを通して、文化や教育の違い等、多くの事を学ぶ事ができました。また、他の国の人たちとのコミュニケーション方法についても今後役立つことがたくさんありました。日本のみなさんと過ごせる時間がもう少し長ければ、もっとお互いの事を知ることができたと思います。

カンボジア高校生

カンボジアでは、授業体験やホームステイを通じて多くの経験をすることができました。日本のみなさんはマナーを守り、とても勉強熱心だと思いました。言葉の壁が多少あっても良い友人関係を築くことができたと思います。

カンボジア高校生

先生

中原　侑子　先生

今回の訪問では、カンボジアという国の勢いを肌で感じました。専門家の方からお話を聞き、また小学校訪問で子どもたちの勤勉さと手先の器用さを見て、そう実感しました。そして何よりバック トゥーク高校のみなさんの心からのおもてなしに感動し、そういった温かい気持ちがこの国を支えているのだろうと思いました。本校の参加者全員にとって、カンボジアは心優しい友人のいる特別な国になりました。

坂尾　俊介　先生

本プログラムの特徴は招聘と派遣が対になっていることにあると思いました。単なる派遣としてではなく、待っている「友人」に会いに行くという感覚でカンボジアへ向かうことができました。日本招聘で初めて出会い、大使活動、歴史文化理解活動、交流活動で行動を共にし、絆が深まった「友人」。カンボジア派遣前には待っている「友人」のことを考えながら準備し、現地では「友人」との再会の喜びをかみしめつつ、一緒に各種活動に参加できるプログラムでした。